

# 花育活動の実践マニュアル(Ver.1)



平成20年3月

財団法人日本花普及センター

## は じ め に

我が国における現代の生活、中でも都市での生活では、室内など閉鎖的な空間で過ごす時間が大半で、花や緑に触れる機会は極端といってよいほど少なくなっております。身近な生活空間の花や緑は、園芸作業や花を生けたり飾ったりすることを通して、人々の心身を癒し、リフレッシュさせる効果が知られています。特に、様々な知識や体験を最も盛んに吸収する幼児・児童期の成長段階において、花と緑に親しみ、育てることを経験することは、やさしさや美しさを感じる情操面の向上や農と接するといった体験活動の観点から効果的であります。加えて、地域活動においても花や緑を介した世代間交流等により、地域のつながりを深めることが期待されております。

このため、当センターでは、花育活動の内容をより一層充実して効果的に実施できるようにするため、農林水産省が公募した平成18年度及び19年度の知識集約型産業創造対策事業に応募し、花育活動に関する発調査事業に取り組みました。

この調査事業では、学識経験者、花き産業関係者、教育関係者等で構成する花育活動推進委員会を開催し、花き産業関係者等による花育活動の先進的事例の収集・分析、日本の四季豊かな気候風土に適した花育活動の実践マニュアルの検討・作成、花育活動支援ボランティアシステム（人材の登録、仲介斡旋、ネットワーク化等）の検討等を行い、「花育活動推進方策」を策定しました。

この花育活動実践マニュアルは、「花育活動推進方策」に基づき、幼児と低学年の児童を対象とする花育の一事例として、本委員会の実践マニュアル作成グループが、品川区立御殿山幼稚園の参加・協力を得て共同で取り組んだ花育活動をベースに、各委員が小学校や地域で実践している花育活動の成果も加えて取りまとめられたものである。

この3月28日には、花き業界や都市緑化関係者等が主体となって全国花育活動推進協議会が発足し、花育活動の全国的な普及推進体制が整備されてきたところであるが、この花育活動実践マニュアルがその活動の一助になることを期待しております。

なお、本調査事業の実施に当たり、花き業界関係者をはじめ多くの方々からご協力・ご指導いただきましたことに対して厚くお礼申し上げます。

平成20年3月

財団法人日本花普及センター  
会長 佐藤安弘

## 目 次

幼稚園における花育活動の実践マニュアル	1
1 花育活動の実践マニュアルの基本方針	1
2 花育活動の実践マニュアルの検討過程	1
ア 花育活動の基本的な取り組み方	1
イ 年間カリキュラムと関連づけた花育活動	2
ウ コンテナ及び花壇の年間栽培スケジュール	2
御殿山幼稚園における花育活動（フラワーデザイン編）	3
御殿山幼稚園における花育活動（ガーデニング編）	7
資料1 品川区立御殿山幼稚園をモデル地区とした花育活動の 実践マニュアルの基本的な考え方	10
資料2 品川区立御殿山幼稚園の花壇とコンテナの配置計画図	12
資料3 品川区立御殿山幼稚園のコンテナ及び花壇の年間栽培スケジュール	13
小学校における花育活動の実践マニュアル	14
- 1 実践事例の紹介	14
1 はじめに	14
2 実践事例	14
3 実践事例	16
4 実践事例のまとめ	17
- 2 小学校における花育活動計画	18
1 活動計画	18
2 年間行事計画との調整に工夫・配慮したこと	19
3 花壇作りやアレンジメントの実施に当たって、事前に準備したり、 児童に対して注意、配慮したこと	19
4 児童の花育への取り組み姿勢や教育的効果に関すること	20
5 外部からの指導・支援を受け入れることの効果や問題点に関すること 委員会活動への意見	20
6 委員会活動への助言	20
地域における花育活動の実践マニュアル	21
1 これまでの「HANA IKU」活動の概要	21
2 母子を対象とすることで工夫・配慮したこと	23
3 フラワーアレンジの実施に当たって、事前に準備したり、 母子に対して注意、配慮したこと	24
4 母子の花育への取り組み姿勢や教育的効果に関すること	24
5 外部の行政機関との連携や指導・支援を受け入れる場合、この効果や問題等	25
（参考資料1）「花育活動推進方策」の抜粋	26
（参考資料2）花育活動推進委員会の構成	34

# 幼稚園における花育活動の実践マニュアル

(品川区立御殿山幼稚園における年間行事に即した花育活動の実践事例より)

## 1 花育活動の実践マニュアルの基本方針

幼児と低学年の児童を対象とする花育については、花や緑のある生活空間とそれに触れることのできる場と機会を提供し、身近に花や緑のある快さを実感させるための支援を進めることを基本方針とする。

具体的には、幼稚園等の園庭に自然で季節感のある豊かな花や緑を準備し、先ずは戸外に連れ出すことから始める。日常的に花や緑のある空間や花や緑に触れることができる環境に馴染み、花や緑に囲まれる心地良さを諸感覚で感じられるようにする。また同時により生活に密着した花や緑を知る機会として花や緑と関わりの深い日本古来の祭りや母の日、クリスマス等日本でも多く家庭で親しまれている欧米由来の催事への参加を体験する。できる範囲で指導者、保護者、友達と協力して花準備の手伝いなどもしてみる。

## 2 花育活動の実践マニュアルの検討経過

花育活動の実践マニュアル作成グループは、まず、御殿山幼稚園の年間カリキュラム、園庭等の教育現場の状況、園児を取り巻く生活環境等を調査・把握するとともに、花育活動の基本的な取り組み方針、花育活動の実施上の問題点等について総合討議した。

### ア 花育活動の基本的な取り組み方針

a 都市市域にある御殿山幼稚園の場合、ほとんどの幼児が園芸作業やフラワーアレンジ等の体験がないことを踏まえ、まず、花と緑に楽しく接する機会を提供することを基本とした。

また、幼稚園の指導者の方々は、花と緑に関する専門知識や技能を有していないことが多いので、花き業界関係者がボランティアとして指導・助言することを前提とした。一方、花き業界関係者も、教育の専門知識や経験を有していないので、花育活動の実際の運営については、幼稚園の年間カリキュラムに基づく学習計画に即して、その学習計画をサポートするように花育活動を実施することとした。

b 種子や球根の植え込み等により、植物を育てその一生を観察することを体験させることとした。このことは、生命力、命の営みに感動してそれを守ることの大切さを実感させることに効果的であり、花育にとって最も基本的なことである。また、花の咲くまで、実のなるまで、種のできるまでの過程を観察し、花と葉の機能やその関係の基本を理解させることができる。

c 花を収穫(花摘み体験)して、飾る、押し花等にするのを体験させることとした。このことは、ふだん家庭や自分が切り花を使い慣れているとしても、土に生え

ている花を切る行為は、多くの子供にとっては新しい体験となる。また、花を飾る楽しみや人に花を贈る喜び等の新たな体験ができる。

## イ 年間カリキュラムと関連づけた花育活動

- a 年間カリキュラムをみると、入園式、母の日のプレゼント、七夕、お月見、いもほり、作品展、クリスマス、お正月遊び、節分、ひな祭り、修了式等の季節ごとに多様な行事が取り組まれており、これら行事と花育との可能性について検討した。

資料3 品川区立御殿山幼稚園のコンテナ及び花壇の年間栽培スケジュール

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
行事				入園式	母の日		七夕		お月見	いもほり		クリスマス
栽培	冬草	冬草	冬草	春草	春草	夏草	夏草	秋草	秋草	冬草	冬草	冬草

- b 季節ごとにフラワーアレンジメント楽しむ行事として、  
春 母の日 秋 お月見 冬 リース(クリスマス、お正月) 春 ひな祭り  
を設定するとともに、その花材については、購入したものだけではなく、園内の花壇やコンテナ等で身近に採れる草を活用することとし、栽培計画に反映するとともに、10月に行ういもほりのつるを乾燥してクリスマスのリースの素材として活用することとした。

また、パンジー等季節ごとの花で花壇の植え替え時に処分しないといけなないものがあるが、それらの花を押し花として保存して、敬老の日のプレゼントの素材等として活用することとした。(資料1参照)

## ウ コンテナ及び花壇の年間栽培スケジュール

- a 御殿山幼稚園は、小学校の隣接した幼稚園であるが、園庭は約400㎡と狭く、花壇が十分に確保できていない上、周辺建物の日陰のなる部分、西日が強く当たる部分等環境条件が異なるので、それぞれの環境に適した植物を選定するとともに、その栽培管理に園児や父兄が参加できるように配慮した。(資料2、3参照)
- b 特に、都市地域の幼稚園では、花壇用地が確保できない場合もあるので、西側の通路部分には、大型コンテナ(L1200×W505×H515)を導入することし、季節の草花や野菜等を栽培して収穫するコンテナ花壇とした。
- c また、金網ヘンスやハンキングの活用等を行い、立地条件に生かした多様な栽培方法があることを示すこととした。

## 御殿山幼稚園における花育活動（フラワーデザイン編）

### 一年間の行事に即したフラワーデザインの基本的な考え方

- ・園児が花に触れ楽しむことで、自由な発想や感性を養う。
- ・行事と花の関わりや花の色、香り、季節感を感じてもらう。
- ・単体の花を組み合わせ、アレンジメントに仕上げる達成感を感じてもらう。

### 各フラワーデザイン設計及び花材・資材の選定の考え方

- ・ひな祭り
  - ・花育のスタートの課題であったため、ひな祭りのイメージを菱餅にし単純化した。アレンジ体験のない園児が、菱餅形の吸水性スポンジに自由に花を生けてもひとつの作品に仕上がるようにした。

時期 平成19年2月27日(火)  
 時間 10:00～12:00  
 参加人数 55名

花・資材	数量
チューリップ(メリーウイド)	2
スイートピー(初恋)	2
菜の花	2
spマム	2
カラー吸水性スポンジ(レインボ-フォーム)	1
ビニールシート(塩化ビニール製のラッピングペ-パー)	1
紙皿	60
アレンジ袋(持ち帰り用)	60

白、ピンク、緑のレインボ-フォームを3段に重ねて菱餅の形にカットする。  
 紙皿は長時間の湿りには耐えられないので、ビニールシートを水受けとして敷いた。  
 ピンクや若草色のペ-パーを使用してひな祭りのイメージを表した。



### ・母の日

- ・吸水性スポンジを使用しない方法でも花をアレンジできることを体験してもらった。
- ・カラフルな透明感のあるビニール製の器に投げ入れ風のアレンジしてもらった。
- ・母の日のプレゼントとしてカーネ-ションと春の草花の組み合わせをした。また、親子で花の会できるように考えた。

時期 平成19年4月27日(金)  
 時間 10:00～12:00  
 参加人数 55名

花・資材	数量
spカーネ(ｾｯｼﾞ)	3
spバラ(ｾｯｼﾞ)	3
ハーブセラニウム	3
マトリカリア(ｼﾝｸﾞﾙﾊﾞﾙ)	2
ニゲラ	2
千日紅(ｽﾄﾚﾌﾟﾄﾘｰﾌ)	3
ビニール製カラールッカースカイベース(透明感のある) (赤、グリーン、ブルー、クリア、オレンジ)	1

花を支えるためアルミワイヤーをバネ状につくり、それを器の口ぎりぎりに横たえ、ワイヤ両先端を器の両端にそれぞれ引っ掛け取り付け。ワイヤーの隙間に花を生ける。幼稚園で育った花を加えた。



#### ・お月見

・花はお月見と秋の七草風の組み合わせに、花育として花壇に植えた野菜(ラディッシュ)を収アレンジに加えることにした。

時期 平成19年10月 5日(金)  
時間 10:00 ~ 11:30  
参加人数 55名

花・資材	数量
ススキ	2
ピンポンム(黄)	2
リンドウ	2
ワレモコウ	1
ナデシコ	3
スプレイム	2
栗	3
吸水性スポンジ	1
紙皿	1
塩化ビニール製ラッピングペーパー(ﾊﾞｰｼﾞｭ)	1
カラー輪ゴム	3
持ち帰り用袋	1

月のイメージ

1/2個

ラディッシュが既に収穫されてしまい、使用できなかったため、代替として栗と幼稚園のブドウをアレンジに添えた。



・クリスマス

・幼稚園が毎年、親子でつくるリースづくりが行事としてあったため、それと連動したかたちで、今年では花育として行うことにした。リースの土台は収穫したさつまいもの皮を乾燥させたもの、幼稚園側でリースに仕立てたものを使用した。合わせるオーナメントは自然素材のみにし、親子の共同作業で仕上がるようにした。

平成19年12月18日(火)

10:00 ~ 11:30

62名

花・資材	数量
ヤシャブシ枝・実付	1 1/2本
サンキライ	1
松笠	4
ハッカク	5
ノーブルベルベトリボン	1m
ゴールドリボン エラスチックブレード(下げひも)	50cm
茶色地巻ワイヤー	適宜
持ち帰り用袋(紙)	1

素材をワイヤリングし、リースの土台にオーナメントを取り付けていく。  
最後に作例として、リボンを外し、松の枝、水引を取り付けければ、お正月リースにも使用できることを紹介した。



園児への実践・指導に当たって、注意、配慮したこと

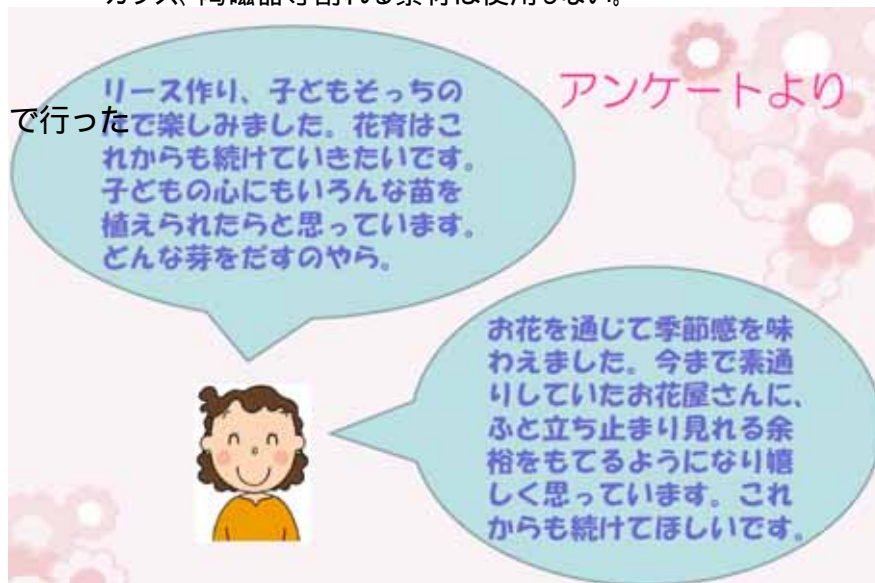
- ・花材選択は園児の体格にあわせて、花の大きさ、茎の太さ、硬さ等を考慮した。
- ・棘のある花材を避けた。
- ・器選択では、割れる、重い、硬すぎる等の素材は使用しないようにした。
- ・香りのある花材をできるだけ選択した。
- ・手に負えない部分は、こちらで制作し持参した。
- ・色彩面でも楽しむことができるよう配慮した。

その他創意工夫した事項

- ・ひな祭りでは、カラーの吸水性スポンジのピンク、白、若草色を菱餅形にカットして、それを土台とした。

幼稚園の外部から指導アドバイスする場合の注意事項、問題点

- ・指導には、説明役と複数の指導者が各園児を見て怪我など起きぬよう注意する。
- ・鉢は幼児用の先端が丸みのあるものを使用すること。(幼稚園に備品としてあるものでよい)
- ・指導する時間は30分程度。それ以上は耐えられない。
- ・説明する時は、全員が前を見てからにする。途中の説明も必ずそのようにする。
- ・ガラス、陶磁器等割れる素材は使用しない。



P T A 活動と  
の共催で親子で  
おこなったクリ  
スマスリース作  
りのアンケート  
より。

毎月の誕生会では、  
年長の子どもたちが  
フラワーアレンジを  
行い、友達にプレゼン  
ト。また、子どもから  
はお母さんへ。

ペットボトルにオ  
アシスを入れて、庭に  
咲いている花を生け  
たもの。



## 御殿山幼稚園における花育活動(ガーデニング編)

### 御殿山幼稚園における花壇設計の基本的な考え方

園庭、通路ともにすっきりと整理して四季折々の花がどこかで咲くように、宿根草、一年草合わせて植栽計画をたてる。

子供の感性を育てる意味で、種をまき芽が出て、花が咲き、実がなる、そして喜び感謝して食す。

### 各花壇の立地条件の対応した植物選定の考え方

校庭花壇は一方は建物一方は崖と日当たりが悪くフェンスの面のみ日当たりや、風通し共に良く野菜や日当たりを好む植物に適している。

その場その場の育成に適した植物を宿根草と一年草の混合植えとする。

自分たちで育てた植物を、年間行事などの飾り付けに使用できるように選択する。

### 植物ごとの栽培ポイント

#### 日当たりの良いフェンス

**もっこうバラ** 花が終わったら肥料(骨粉、油粕)を8月下旬までに月2.3回与える。  
花後すぐ剪定する(花が咲いた枝を半分ぐらい切り落とす)  
前年に伸びた枝に8,9月に花芽形成します。12~1月に古枝などを切り落とします。斜め上に誘引すると花つきが良くなります。

**風船かずら** 種がハートの形をしているので子供が見て楽しい。  
よくつるが延びて紙風船形の実がたのしい。  
一年草なので種を取っておくとよい。

## モッコウバラの植え付け



大型プランター  
なす  
キュウリ  
ミニトマト  
こだまスイカ

野菜を植えるため深さのあるコンテナを用意しました。



## コンテナでできたスイカ



## 花壇

アガパンサス 花が終わったら花茎の付け根から切り落とす。  
生育が旺盛なので春と秋に油かすや化成肥料を与える。  
3～5年に株分けを行います。

ヤブラン  
萩

## 日陰の花壇

斑入りギボウシ シェードガーデンに適しています。  
11月～3月まで休眠します。

クリスマスローズ

ユキヤナギ 枝の伸びの勢いが強い植物です。  
枝が密になると風通しが悪く蒸れるので、間引いて風通しをよくする。  
9月～10月に花芽形成します。

斑入りやつで

## 一年草

マリーゴールド  
ダリア  
ニチニチソウ  
インパチェンス  
ひまわり  
おしろいばな

## 花壇の様子



## 資料1

### 品川区立御殿山幼稚園をモデル地区とした 花育活動の実践マニュアルの基本的な考え方

#### 1 種から育てる体験を取り入れる。

##### (1) 理由

- ・ 植物は、人間と同じように生きているということを感じられるようにするため
- ・ 植物は、種から育っているということ、発芽・鉢上げ・定植という一連の過程があることなどを知ってもらうため

##### (2) 方法

トレーに蒔く⇒ 鉢上げをする(ヤドカリのように体の大きさに合わせてお家を換えてあげる)⇒ プランターや花壇に植え付ける(そうっとそうっと植える)

##### <配慮すること>

- 児童が何の花を育てているかが分かるように、育てている花には、必ず名札を立てておく。
- 育てる花は、丈夫であり手間がかからないような物にする。(ヒマワリ、センニチコウなど)

#### 2 フラワーアレンジメントを行事にあわせて行う。

##### (1) 理由

花を飾ったり活用したりして季節を感じ、生活を豊かにできるようにするため

##### (2) 方法

自分が育てた花を摘む⇒ 購入切り花と自分が摘んだ花の両方を使って保護者と共にアレンジメントする⇒ 教室や家に飾って楽しむ又はプレゼントする

##### <配慮すること>

- はさみの使い方を事前に指導し、怪我のないようにする。

##### (3) アレンジメント楽しむ行事

春—母の日 秋—お月見 冬—リース(クリスマス、お正月) 春—ひな祭り

※ 花壇やコンテナ等で身近に採れる草を活用する。

※ リースは、育てたサツマイモのつるを使う。

※ お正月用のリースは、幼稚園で飾りを付け変えたものを見せるのみとする。

#### 3 自分が育てた花をきれいなまま残す。

##### (1) 理由

- ・ 自分が育てた花を大事に思う気持ちを尊重するため
- ・ 花を残す方法を知ってもらうため

(2) 方法

パンジーが終わりの頃、押し花にする ⇒ パウチする ⇒ 敬老参観でコースターとして使う



センニチコウをドライフラワーにする ⇒ いもつるをリースの飾りに使う



4 環境に合わせた栽培活動をする。

(1) 理由

植物はいろいろな育て方があることや環境に合ったものがあることを知ってもらうため

(2) 場所と方法

○フェンス……フウセンカズラやモッコウバラなどつる性のもの

○日 陰………クリスマスローズなど日陰でも咲くものやヤブラン、ギボウシなど葉を楽しめるもの

○コンテナ……一年草の季節の花

※ 花壇の代わりになる位の大きさ、深さは50センチ以上（大型コンテナ）

（安定感がある、管理が楽、作業がしやすい、景色が作れる、向かい合って仕事ができるなど）

○ハンギング……ポットフラワーとグリーン

○花 壇………多年草や球根、季節の花

※ 児童が世話をしやすいように、地面との段差を低くする。



資料3

品川区立御殿山幼稚園のコンテナ及び花壇の年間栽培スケジュール

区分	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		
	上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	
季節毎の園の行事	入園式		母の日のプレゼント こどもの日				七夕					お月見	いもほり				作品展 クリスマス		お正月遊び			節分		ひな祭り	修了式
コンテナ1					もっこうパウチ植え付け(4ポット)																				
コンテナ2			※1 種まき		風船かすら 事前に季節の草花※2																				
コンテナ3					風船かすら 事前に季節の草花※2																				
コンテナ4					ナス(3)																				
コンテナ5					キュウリ(3)																				
コンテナ6					野菜植え付け																				
コンテナ7					ピーマン(3) スイカ(3)																				
花壇A					花壇整備 アザレア事前に移植 季節の草花植え付け※2																				
花壇B					花壇作り(レンガ、石) ミントの整理																				
花壇C					花壇整備 アガパンサス植え付け ヤブランチ植え付け																				
花壇D					クリスマスローズ植え付け 花壇整備																				
花壇E																									
花壇F																									



アガサンバン



クリスマスローズ



もっこらばら



ひまわり



風船かすら



千日紅

風船かすら  
ひまわり  
オンロイバナ

※2 季節の草花植え付け  
マリーゴールド  
トシニア  
ダリア

# 小学校における花育活動の実践マニュアル

(世田谷区立中町小学校における花育実践事例より)

## - 1 実践事例の紹介

### 1 はじめに

世田谷区には小学校が64校あり、その小学校を行政区分として8つのブロックに分けている。今年度は、各ブロックの2校がフラワースクールとして花育推進校に指定された。本校もその中の1校である。各学年がそれぞれ発達段階に応じて、花づくりに取り組んでいるが、ここでは、その中の総合的な学習の時間に取り組んだ5年生の「緑がいっぱい、花いっぱい」の実践事例と生活科の学習で1・2年の児童が10年以上前から近くの農家の方に教えていただいているコンテナガーデンづくりの実践事例の二つを報告したい。

### 2 実践事例

年間を通して花に親しんだ「緑がいっぱい、花いっぱい」5年 総合的な学習の時間  
<この活動のねらい>

自分たちが住んでいる町の自然環境を調べたり、野菜や花を育てたりして、自分たちの生活の中で自然や花の果たす役割を考え、大切にしたり広めたりすることができるようにする。

#### (1) 花を楽しむことになったきっかけ

自分たちが住んでいるこの町には花や緑が多いのか少ないかを問かけると「東京は、店や家が多く花や緑は少ない」という意見と「見た限りはかなり多い、公園や学校にもたくさん緑はある」という2つの意見に分かれた。

そこで、実際に地域を歩いて調査してみた。その結果、どの家にも植木鉢や花壇があり花や野菜、木などが植えられていた。中には、屋上にまで木を植えている家もあった。

なぜ、人々は植物を育てるのかを話し合った結果、「癒される」「気持ちが安らく」「育てることが楽しい」「きれい」などの意見が出された。また、調査している最中、近くの園芸農家に立ち寄った。ビニルハウス中に咲いているカーネーションに感動した子どもたちは、ちょうど母の日が近かったため、花の値段や育て方などについて話を聞いた。この時期に花を咲かせるためには、いつ種をまいたのかという質問に、種からではなく挿し木からだという答えを聞き、二重の感動を得た。また、挿し木にすると丈夫に育つこと、親の株と同じ花が咲くこと、短期間で花を咲かせることができること、植物のほとんどが挿し木できることなどを教わった。

そこで、自分たちも花を楽しむことや挿し木に挑戦することにした。

#### (2) フラワーアレンジメントで花を楽しむ。

道端や家の庭、学校の花壇などに咲いている花、アイビーなどを持ち寄り、それらをオ

アシスを詰めた空き瓶やカップに自由に挿して、小さなアレンジメントを作った。花を摘む時、挿すとき、持ち帰る時の児童の顔は頬が緩み、皆満足そうであった。中には家族の人数分だけアレンジメントを作った児童もいた。

学校の花壇の花は、伸びている花を中心に形を整えながら切るという条件で、担当者にアレンジ用に切り取ることの許可を得ていた。しかし、花を自分で摘んで飾るという体験が少ないためか、大きく華やかな花を選び切り取っていった児童が多かった。そのために花がみんな無くなってしまわないかと担当者がハラハラドキドキする場面もあった。

その後、フラワーアレンジメント世界チャンピオンの方にその技を見せていただく機会を設けた。小さなハサミ一つで繰り出されるブーケや季節を表現したアレンジに本物の素晴らしさを心から堪能した。

### (3) 挿し木に挑戦する。

ほとんどの植物が、挿し木で増やせることをきいて子どもたちは、早速挿し木に挑戦した。しかし、思うようにいかず、園芸農家の方に来ていただいて、挿し木の仕方をゼラニウムを使って教えていただいた。発根しやすいように鹿沼土を使う、生長点がちゃんとあるものを選ぶ、葉は3・4枚にする、適度な湿度を保つ、日陰に置くなどを教わった。

教室において、みんなで世話をしていたが、水のやりすぎで、また、失敗してしまった。3度目の挑戦でポーチュラカ、再びゼラニウム、アイビー、ポトス、芙蓉、カポック、ジャスミンなど花や観葉植物など様々なものを試した。2回の失敗から得たものも多く、かなりのものが成功した。

### (4) 今度は種から花作りに挑戦する。

9月に入り、棚から育てる花作りに挑戦した。今回も園芸農家の方に教えていただいた。

花担当の児童が、直接農家の方の家におじゃまして、種の蒔き方を教わった。パンジー、アリッサム、ノースポールの3種類を選んだ。育てやすく、丈夫なことが選んだ理由である。

紙を二つに折り、その中に種を入れて、一粒一粒、育苗箱にまいていった。その中には、セル培養土という土が入れられていた。この土の入れ方も事前に農家の方に教わって子どもたちの手で行った。

今までは、たくさんの種を適当に蒔いていた子どもたちにとって、このような丁寧な作業は初めてであり、大きな驚きであったようである。

### (5) 花の世話に農家に通う。

土日の休みが入るため、学校での栽培は難しく、農家の方に種まきしたものを預かっていただくことにした。ローテーションを組んで水やりに毎日通った児童から「芽が出た」「大きくなった」「アリッサムが一番早く大きくなっている」など、生長の様子がその都度報告された。苗はそれぞれが240ずつあり、全部で720の苗である。ビニルポットに移植できるようになるまで預かっていただいた。

### (6) ビニールポットへの植え替える。

また、農家の方に来ていただいて、ビニルポットに植え替えた。ピンセットを使って苗

を取り出し、根を傷めないように植え替えていく。土に穴をあけておき、その中に入れていくことは児童にとって楽しい活動のようであった。真白に根が張っていたことも驚きだったようである。

#### (7) 町を緑や花でいっぱいしよう

育った苗をどのようにするか相談した結果、学校の周りがさびしいのでそこに植える、谷沢川沿いの花壇に町の人がボランティアで花を育てているので自分たちも同じように花を植えてきれいにするなどの意見が出された。また、自分たちだけが育てるのではなく、デイ・ホーム、保育所、幼稚園、児童館などにプレゼントした、そこでも育ててもらおうという意見も出され、それぞれの場所へ植えたり届けたりした。

#### (7) 花の楽しさをみんなに伝える。

花を育てる楽しさとして、挿し木の仕方や種の蒔き方などを、飾る楽しさとしてリース作りやアレンジメントの仕方を学習発表会で、保護者や全校児童に教えた。今までとは反対の立場に立つことで花の楽しみ方を再確認することができた。

### 3 実践事例

お花大好き、お世話も大好き「花や野菜をそだてよう」1・2年生活科

この活動は、生活科の学習指導要領内容(7)

動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気づき、生き物への親しみを持ち、大切にすることができるようにする。

を受けて設定したものである。

#### <活動のねらい>

自分が育てたい野菜や花を植木鉢や畑で育てる中で、育つ場所や生長の様子に関心をもったり親しみを感じたりしながら世話する喜びを味わい、植物を大切にすることができるようにする。

#### (1) 園芸農家に行ってコンテナガーデンづくりを楽しむ。

1年生も2年生も、11月初めに、自分の植木鉢を抱えて園芸農家まで行き、球根1つと花の苗2つを買ってコンテナガーデンを作っている。自分で選んだものを植えることが、花に親しみ、育てる意欲につながると考えているからである。この活動を2年間にわたって取り入れているが、活動の違いは、1年生はまとめて代金を支払い、2年生はそれぞれがお金をもって行って、自分が買った物の代金を自分で支払う活動を取り入れている。また、それまでに1年生は、朝顔を育て、2年生は、ミニトマト、ナス、オクラ、枝豆、インゲン豆などそれぞれが育てたいものを選んで育てているため、コンテナガーデンを作る際も1年生は花に限定し、2年生はイチゴやパセリなどを植えてもよいことにしている。

#### (2) 花選びにも個性を発揮する。

たくさんのお花を目の前にして、花を選ぶ際、それぞれの個性が表れる。「白い花が好きだから全部白にしたの」「リカちゃんという名前が面白いから、ちょっと高いけどパンジ

「はこれにする」「パセリも植えてお母さんにあげる」「金魚草って、本当に金魚みたい。かわいいからこれにする」「アリッサムは本当にいい香り、これがいい」など様々である。花を選ぶのに1時間かかったY君

2年生のY君は、植物や動物が大好きである。日頃から花に関心をもっており知識も豊富である。花に対する思い入れが強いためか、花を選ぶ際、何度も何度もハウスの中を歩き回るがなかなか決めることができないでいた。農家に手伝いに来ていた方が付き合ってくれたが、最後は泣きながら選んでいた。結局ローズ色のプリムラを一鉢選んだ。他の児童は皆二鉢選んだがY君だけは一鉢であった。しかし、とても満足そうに見えた。次の日、Y君は、家から大きな貝殻を一つ持ってきてその植木鉢に置いた。その組み合わせが素晴らしく素敵に見え、他の児童から「すごい」と歓声があがった。さらに、彼の満足度は高まったようである。

しばらくすると、彼の鉢に小枝が刺さっていた。訳を尋ねると、プリムラの芽を食べに鳥が来たため、鳥が羽を広げられないようにすると鳥が来ないという情報を祖母から得て、それを実践したのである。花をひと鉢育てるにも、それぞれの思いが表れる。

世話の大切さに気付いたC君

次の作品はC男君の学習カードである。記入内容からも花の数に生長の喜びを感じ、世話の大切さに気付いていることが読み取れる。

#### 4 実践事例のまとめ

この二つの実践から花や野菜の栽培が児童の成長に少なからずよい効果をもたらしていることが分かった。以下がそのまとめである。今後も、植物に関する効果的な学習活動を開発し、実践していきたいと考える。

<実践を通して分かったこと>

農家の人に直接接することで花を育てることの楽しさや生命の不思議さに気付いた。

農家の人にたくさんの花の名前や育て方、殖やし方、植え方、土の種類、世話の仕方などを教わった。その花を育てた人に直接教わることによって、自分もあのように育てたい、これからどんな花が咲くのだろう、どのくらい大きくなるのだろうという期待ももてた。また、給食の残飯で肥料が作られていることや土にもいろいろな種類があることなども教わり、認識を新たにすることができた。

農家の人に対しても花の気持ちがわかってすごい、あんなにきれいな花を咲かせることができるとすごい、花に対する思いが強いなど、生き方にまで共感する児童もいた。

また、種からだけでなく挿し木からでも増やすことができることで植物の生命力の強さにも感動していた。

寄せ植えやフラワーアレンジメントで花の素晴らしさに気付き多くの感動を生んだ。

種から育てる、球根を植えるなどの方法で花の栽培を経験してきた児童は、すでに咲いている花を植えることで新たな気付きを生んだ。朝顔にはつるがあるがパンジーやノースポールにはない、根がクモの巣のようになっている、花にはいろいろな色や匂いがある、朝顔の根は黄色っぽいのアリッサムやの根は白い、花も生きているなどである。植えた後は華やかさがあって、家に持って帰りたいという声が上がった。花の美しさ感動し、家族にも見せたいという気持ちをもったようである。

アレンジメントでは、小さなカップに生けた花がまた、違う花の魅力を引き出し、花の楽しみ方を再認識できた。

## - 2 小学校における花育活動計画

### 1 活動計画

#### 生活科 「花や野菜を育てよう」

##### 目標

- ・自分が育てたい野菜や花を植木鉢や畑で育てる中で、育つ場所や生長の様子に関心をもったり親しみを感じたりしながら世話する喜びを味わい、植物を大切にすることができるようにする。
- ・育てた花や野菜を活用し、自分の生活を豊かにするとともに、花や野菜を活用する楽しさに気付く。

#### 1年 花いっぱいになあれ(20時間) 内数字は時間数

##### <活動計画>

###### 花を育てよう(9時間)

- ・畑やプランターで育てる花を決める。
- ・2年生にももらったアサガオの種をまく準備をする。
- ・種まきをする。
- ・世話や観察をする。

###### 花を楽しもう(7時間)

- ・咲いた花やできた種をお世話になった人、誕生日を迎えるクラスの友達、新しく入学する幼稚園や保育所の友達などにプレゼントする。
- ・行事(母の日・クリスマスなど)に合わせたアレンジやアサガオのつるを利用したりリース作りをして楽しむ。

###### お世話になった6年生を花で送り、1年生を花で迎えよう(4時間)「

- ・プランターや畑に春咲きの球根や花の苗を植える。
- ・花卉栽培農家に行って、花の苗や球根の植え付け方を教わりながらコンテナガーデンを作る。
- 日常的に世話をする。

#### 2年 おいしい野菜を食べようね(20時間)

##### <活動計画>

###### 野菜を育てよう(5時間)

- ・畑や自分の植木鉢で育てる春まき、春植えのものを決める。
- ・土作りや種まき、苗植えをする。
- ・世話をする。

###### 収穫を祝おう(10時間)

- ・野菜を収穫し、茎や葉で遊ぶ。サツマイモのつるを利用したリースを作る。
  - ・収穫を祝う計画を立て、準備する。
  - ・家の人や友達と料理をしたり育てた野菜のことを知らせ合ったりして収穫祭をする。
- や野菜を育てよう（5時間）
- ・畑や自分の植木鉢で育てる秋まきのものを決める。
  - ・土作りや種まき、苗植えをする。
  - ・コンテナガーデンをつくり、世話をする。

### <家庭・地域との連携>

地域の農家の方に野菜の植え付け方や土作り、世話の仕方などを教わる。

野菜の種や苗を地域の店で購入する。（農協や苗作りの農家を含む。）

保護者や農家の方と共に収穫を祝う会をする。

農家の方が育てている畑の作物を参考にしながら、野菜の世話をしていく。

花卉生産農家の農場に行って、自分が好きな花の苗を買い、植え付け方を教わりながら自分の植木鉢に寄せ植えをする。または、種から花の苗を育て、自分の植木鉢に寄せ植えをする。

花や種をお世話になっている人にプレゼントする。

## 2 年間行事計画との調整に工夫・配慮したこと

- ・クリスマス前に1・2年ともにリース作りをする。1年は、朝顔のつるを、2年生はサツマイモのつるをそれぞれ利用する。
- ・卒業式、入学式に自分たちが育てた花を飾る。
- ・就学時健診の際、花の種のプレゼントをする。
- ・母の日や友達の誕生日にフラワーアレンジメントをしてプレゼントする。（この活動はいままで行っていませんでしたが、今後入れたいと思います）

## 3 花壇作りやアレンジメントの実施に当たって事前に準備したり児童に対して注意、配慮したこと

- ・母の日、クリスマスなどは家庭によって、配慮を要しなければならないことがあるので、児童の実態をよく把握しておく。また、表現を工夫する。
- ・花壇作りは、土づくりから児童とともに行う。米糠などの肥料なども保護者に声をかけて集めておく。
- ・長期の休みや土日の水やりは当番を決めたり、ペットボトルなどを利用したりして、水が切れないように配慮する。
- ・アレンジメントの材料はできるだけ自分たちで集めさせるようにする。そのために、空き容器は普段から集めておく。花は、買った物だけでなく、雑草、家に咲いているもの、学校の花壇の伸びているものなど身近なものを利用する。
- ・普段から身近な粗大を活用して教室や校内に花を飾り、イメージを豊かにするよう努める。

- ・花壇や植木鉢に植えるものは、手間がかからず丈夫なものにする。
- 夏 アサガオ、ヒマワリ、ヒャクニチソウ、ニチニチソウ、センニチコウ、キバナコスモス、ケイトウ、コスモス、プリムラ、フウセンカズラ、マリーゴールドなど
- 秋・冬 パンジー、ノースポール、アリッサム、フユシラズ、ビオラ、ヒメキンギョソウ、オオアラセイトウ、サクラソウ、球根など
- ・アレルギーや皮膚の弱い児童には、配慮する。

#### 4 児童の花育への取り組み姿勢や教育的効果に関すること

- ・発芽、開花など生長の喜びを感じる。
- ・世話をする楽しさ、収穫の喜びなどを味わえる。
- ・種から、球根から、挿し木からなど様々な方法で発芽させることで生命の神秘さを感じる。
- ・花を育てられたということから自分自身に自信がもてる。
- ・花や野菜を育てることが好きになる。
- ・野の花にも関心を示し、雑草を摘んできて飾ったりする。
- ・名前の由来や花、野菜への関心が高まる。野菜嫌いでも自分が育てたものは食べられる。
- ・自分で育てたものを活用して生活を豊かにする実感がもてる。

#### 5 外部からの指導・支援を受け入れることの効果や問題点に関すること

##### <効果>

- ・様々な人とかわかることで、その人々の生き方や仕事に対する姿勢に共感できる。
- ・プロに教わることで専門的な知識を得ることができる。
- ・活動に広がりや深まりが出る。
- ・活動の成功率が高くなる。

##### <問題点>

- ・打ち合わせの時間とスケジュールの調整が難しい。
- ・学校の予算が限られているため、謝金が必要な場合、材料費がかかる場合のむずかしさがある。
- ・話を聞くことが多くなり、児童自身の活動時間が短くなる。
- ・継続した指導を希望する指導者と受け入れる学校の体制とがうまくかみ合わず互いに遠慮があり、指導者の熱意が十分生かせない場合がある。

#### 6 委員会活動への意見

月1回の活動、対象が5、6年なのでプロの方の指導を受けやすいのでは、ないか。また、フラワーコンテスト応募予定の学校などは、専門家の指導を受け栽培したものを通して、全校に花を活用した活動を広げていきやすい。誕生給食時のアレンジメント(給食委員会とのタイアップ)、勤労感謝集会での集会委員会の活動への参加等、今後に期待できる。

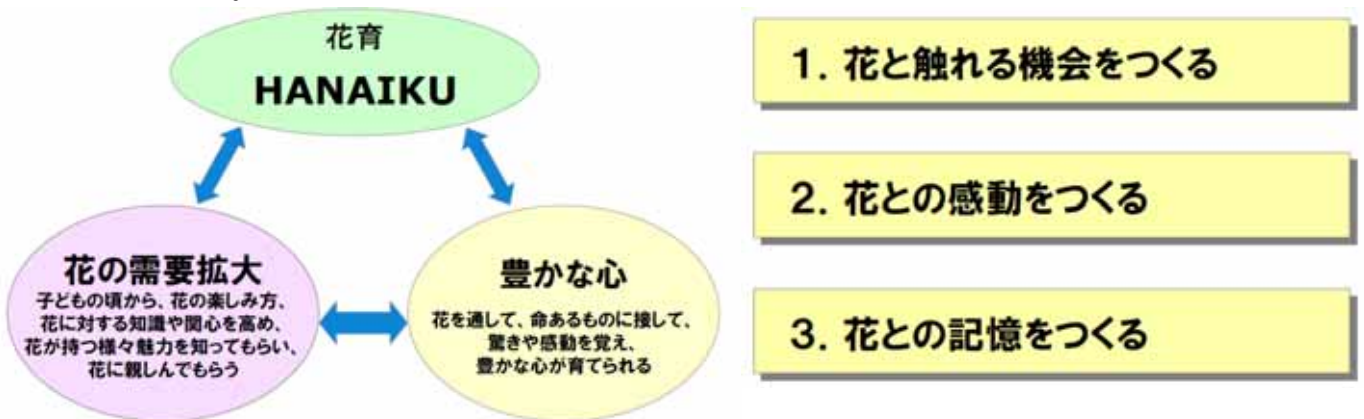
# 地域における花育活動の実践マニュアル

(フローレ21が考える母子を対象とした「HANA IKU」活動より)

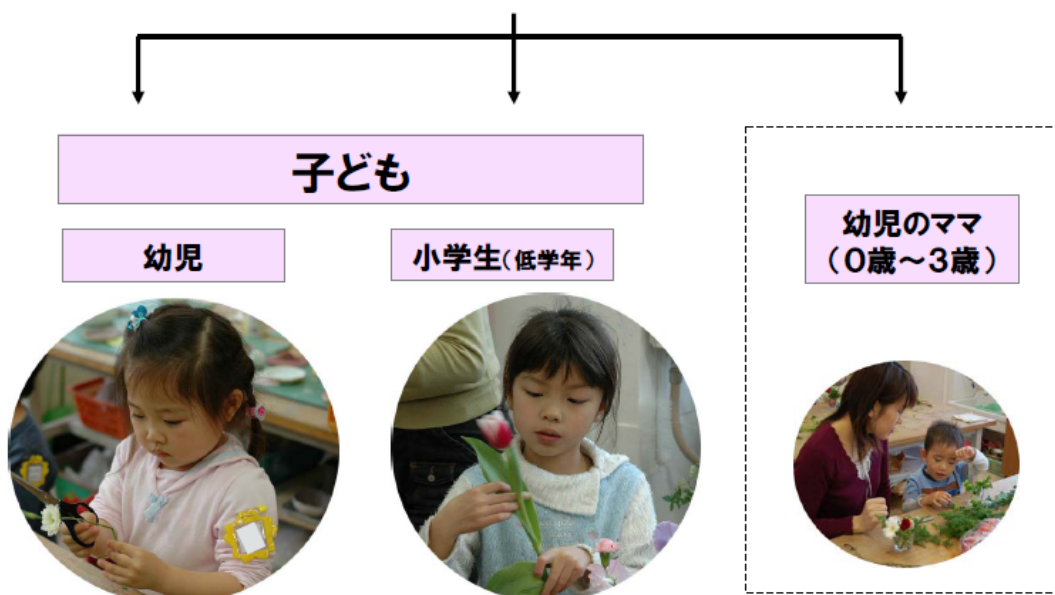
## 1 これまでの「HANA IKU」活動の概要

庭がある家庭が少なくなり、庭で花を育てたり、食卓に花を飾る習慣が少なくなってきた昨今。花に触れる機会が少なくなっている現在の子供達に、花に触れるきっかけをつくる事が今必要となってきました。

フローレ21の「HANA IKU」の目的はより多くの子供達に花に触れる機会をつくり、花を通して心豊かな子供に育ててほしいという願いです。さらに、育児に負われている幼児のママにもこの「HANA IKU」を通して、花に触れる事により、心に余裕ができ、豊かな心で子供に接する事ができるのではないかと考えています。また、「HANA IKU」を行う事で、将来の花の消費者になってくれる事を願い活動をしています。



HANA IKUを通して、親子で一緒に体験することで、興味を持ち、考えるきっかけとなり、花が家族のコミュニケーションツールとなる



2006年10月から花育活動を始めて、1年が過ぎました。  
現在、品川区の児童センターで、幼児・小学生（低学年）・幼児のママを対象に毎月活動を行っています。

## ●実施回数

**54回**（2006年10月～2008年3月28末現在）

幼児・小学生 = 29回

お母さん = 24回

先生向け = 1回

## ●実施場所

**児童館 3館**（品川区）

**小学校 1校**（先生向け 豊島区）

**イベント 2回**（品川区エコフェスタ）

## ●参加人数

**960人**（2006年10月～2008年3月28末現在）

幼児・小学生 = 590人

お母さん = 350人

先生 = 20人

フローレ21の「HANA IKU」は、必ず季節の花を使用し、準備した花の説明をした後、花を自由に選び、あえて見本を作らないで自由にアレンジをするスタイルです。見本を作ると、それにいかに近づけるかをつい競ってしまい、ストレスになるからです。私達の目的はフラワーアレンジの上達ではありません。花に触れる機会をつくり、花を見て楽しみ、感触を楽しみ、匂いを楽しみ、花を通して色々な事を伝え、花を身近に感じてほしいのです。

花器は家にある物を利用し、花器を作るところから始まります。自由に花材を選び、自由にアレンジを行うので、同じ物は一つもありません。私達が教えるのは切り方や、挿し方など、ごくごく基本的なことだけです。そして、完成したら、必ず「良くできたね」、「どの花が一番好き？」などと語りかけることで、強く印象づけるようにしています。

また、アレンジに使った花の名前や今日の感想を「HANA IKUノート」に書き込み、自宅に持ち帰ってもらいます。書くことで、花の名前を覚えてもらえる事と、家に帰って家族とのコミュニケーションツールになるからです。

「HANA IKU」を通して、花に触れる機会をもっとつくり、たくさん子ども達に「HANA IKU」を体験してもらえよう、日々活動しています。

1. 私たちはフラワーアレンジを教えるのではなく、花を通していろいろなことを伝える。(家にある物を利用して花器を作るところから始める)

2. サンプルを用意せず、花を自由に選び、自由にアレンジを行う。

3. 花を選ぶ楽しさ、花の扱い方を知ってもらう為、6～10種類の花材を用意する。\*花材はその花の自然な姿を見せたいので、下葉処理やトゲ取り等はして行きません。(水上げ処理のみ)

4. 必ず季節の花を使用する。

5. 花の品種名・特徴・扱い方・生産地等について説明を行う。

6. 茎の切り方、挿し方、花器についての説明を行う。

7. “HANAIKUノート”を用意。(記憶に残す)

自分の選んだ花の名前を覚えてもらう為。また、家族とのコミュニケーションツールとして。

8. 必ず感想を聞く(アレンジのイメージ・どの花が気に入ったか等を一人ずつ発表・聞いてみる)

## 2 母子を対象とすることで工夫・配慮したこと

家にある物で簡単に花を飾る事ができることという事を知ってもらう為、花をアレンジするだけではなく、家にあるちょっとした物を工夫・利用して花器を作ること。

カリキュラム時間は30分～60分内で行える内容にしています。

### 生花

自宅にある物等を利用して、  
簡単アレンジを行う方法を教える。  
(ペットボトル・タマゴパック・空き瓶など)



花は簡単にアレンジできる！

### 押し花

生花だけではなく、花を押して、  
長く楽しめる方法を教える。  
(押した花で小物などを作成する)



花を身近に感じてもらう！

### 3 フラワーアレンジの実施に当たって、事前に準備したり、母子に対して注意、配慮したこと

事前準備はほとんどありません。あえて準備をせず、準備からレッスンのスタートとするスタイルをとっています。

注意している事は、工作をするので、カッターやハサミ等の使い方などを主に注意しています。

また、幼児（3～5歳）の場合はお母さんと一緒ではなく、あえて、お母さん達には別の部屋で待っててもらいます。なぜならば、お母さんと一緒だと、お母さんが手を出してしまい、子ども達が作った作品にならないからです。子どもが自分で「考える」こと、初めから最後まで自分で作った「達成感」「喜び」を感じて欲しいからです。

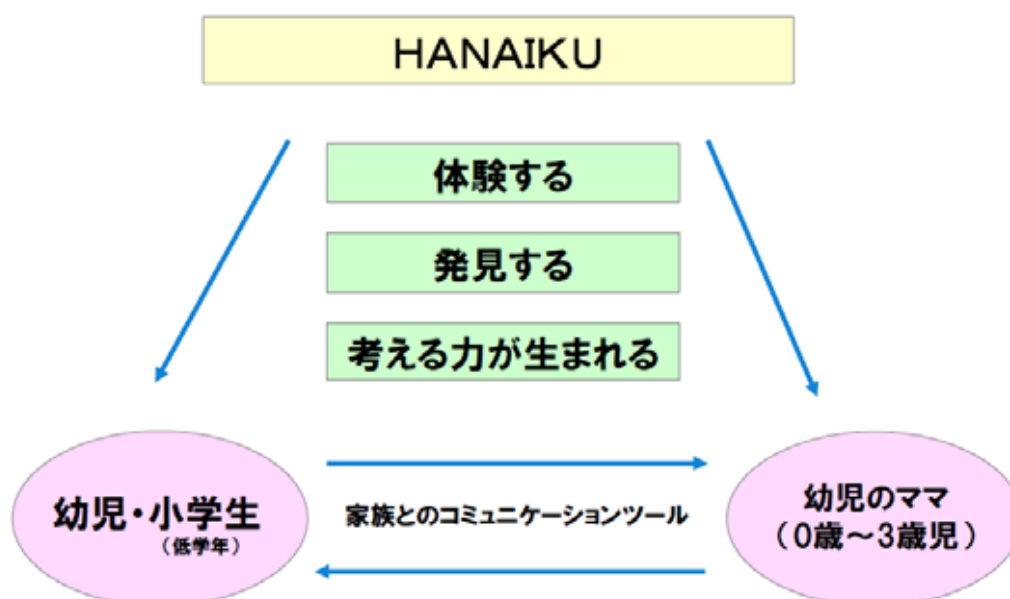
### 4 母子の花育への取り組み姿勢や教育的効果に関すること

幼児のお母さん達に花育を行う際、子ども達は隣に座って、お母さんのやっているところを見ていたり、花を触ってみたり、茎を切ってみたり、挿してみたり、様々です。親子で一緒に体験することで、興味を持ち、考えるきっかけとなり、花を通して家族のコミュニケーションが生まれます。

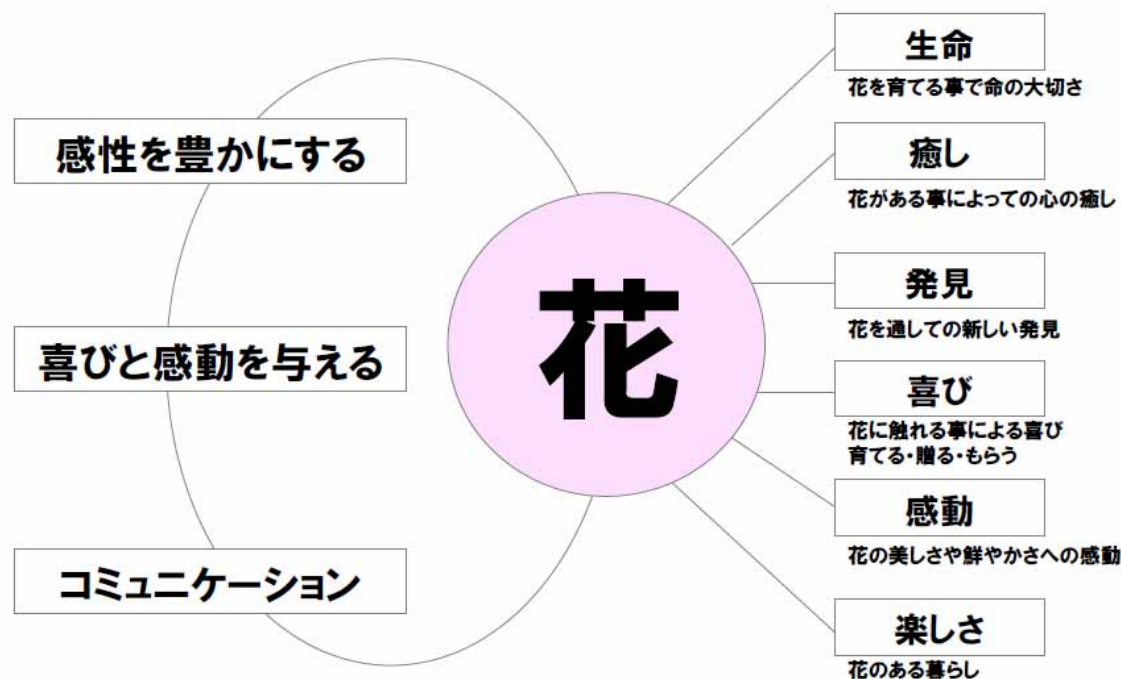
カリキュラム内容はあえて、母と子どもは同じ内容で行っています。同じ体験をする事で、親子で同じ感動を一緒に分かち合ってもらいたいからです。

花は毎日変化します。自分の目で確かめ、違いを見つけた時に、「なぜ?」「どうして?」といった考えを引きだすことができます。

私達が行っている「HANA IKU」活動は必ず季節の花を使用します。それは、花に触れることで、季節感を感じてもらいたいからです。そして、自由に花を選び、アレンジを行うので、子ども達は、大人が思いつかないようなアイデアを出し、花と向き合っています。その場にある物を組み合わせる事で、自分で考え、価値を生み出し、自信を持つことができるようになるのです。



## 花が人間にもたらす効果



備フローレ21

### 5 外部の行政機関との連携や指導・支援を受け入れる場合、この効果や問題等

行政機関との連携を取ることで、「花育」をもっと多くの親御さんや子ども達に知ってもらえることができます。

「花育」を行う上で重要なことは、指導する側が「花育」を理解し、子ども達とちゃんと向き合える人が集まって活動することです。

そうした指導者を育成することで、「花育」がさらに広がるのではないかと考えます。

## (参考資料1)

# 「花育活動推進方策」の抜粋

## 1 花育の社会的効果等

### 1-1 「花育」とは何か、花育の内容

#### 1-1-1 「花育」の基本理念

我が国における現代の生活、中でも都市での生活では、室内など閉鎖的な空間で過ごす時間が大半で、花や緑に触れる機会は極端といってよいほど少なくなっている。

身近な生活空間の花や緑は、園芸作業や花を生けたり飾ったりすることを通して、人々の心身を癒し、リフレッシュさせる効果が知られている。特に、様々な知識や体験を最も盛んに吸収する幼児・児童期の成長段階において、花と緑に親しみ、育てることを経験することは、やさしさや美しさを感じる情操面の向上や農と接するといった体験活動の観点から効果的である。加えて、地域活動においても花や緑を介した世代間交流等により、地域のつながりを深めることが期待される。

都市の生活空間における花や緑は、意図的に準備され、積極的にかかわろうとしなければ何人もその恩恵を受けることはできない。このような状況下で、花育は、花や緑の多様な機能に着目し、屋内外を含めた生活環境に花や緑を回復し、花や緑を身近に感じ、関わりたいと思えるような環境を積極的に整え、幼児・児童一人一人が花や緑のある快適環境の創造に参加しようとする姿勢を育み、花と緑を楽しむことができる健全かつ多様で豊かな心を培うことを基本理念とする教育活動と言える。

なお、21世紀は、平成2年開催の大阪・花博のテーマとして提起されたとおり、「自然と人間との共生」が現代人の大きな課題となる。今後の植物と人間との関係には自然環境や生態系にも配慮して「自然破壊を回避し、健全な状態に保全すること」が花育の理念に含まれるということが重要である。

したがって、花育活動の推進に当たっては、花育が自然や社会に貢献する行為でもあると位置づけて、多くの人々に受け入れやすいように配慮することが必要である。また、花や緑を楽しみながら「自然環境、生態系維持に貢献した。健全な環境づくりに関わった。」と実感できる工夫を付加していくことも花育活動を推進する上で効果的であろう。

#### 1-1-2 「花育」の内容

花育の活動事例を見ると、全国各地で多種多様な取組が実施されているが、対象となる幼児・児童の成長段階に応じて2つに区分するとわかりやすいので、この区分に基づき花育の内容等を取りまとめる。

##### ア 幼児と低学年の児童を対象とする花育の内容

保育所や幼稚園の幼児及び小学校の低学年の児童を対象に、花や緑のある生活空間と

それに触れることのできる場と機会を提供し、身近に花や緑のある快さを実感させるための支援を進める。

具体的には、幼稚園等の園庭に自然で季節感のあるバラエティ豊かな花や緑を準備し、まずは戸外に連れ出すことから始める。日常的に花や緑のある空間や花や緑に触れることができる環境に馴染み、花や緑に囲まれる心地良さを諸感覚で感じられるようにする。また同時により生活に密着した花や緑を知る機会として花や緑と関わりの深い日本古来の祭事や母の日、クリスマス等日本でも多く家庭で親しまれている欧米由来の催事への参加を体験する。できる範囲で指導者、保護者、友達と協力して花の準備の手伝いなどもしてみる。このようにすることによって、自然に共同作業の楽しさを知ったり、地域性のある伝統的な文化に接したり、花や緑と生活との関係が感覚的に培われることも幼児等の将来に向けて価値のある財産になるだろう。

また、この幼児等への花育の実施が家族や近隣の人々に広まる副次的な効果も大きなものになると思われる。ただし、幼児等を対象とした花育の段階では、作業を強いるのではなく、してみたい気持ちが芽生えるように導く、それが感じられた場合に適切に対応するという原則とすべきであろう。あくまで花や緑を通じて自然の人間との関わりの入り口に案内することを目的としたい。

## イ 中・高学年の児童を対象とする花育の内容

花や園芸に関心を持つ、小学校の中・高学年の児童を主な対象として、かなり専門的、本格的なものも含む園芸、花づくりの面白さ、楽しさが体験できる支援を進める。

この段階では、園芸を中心に「楽しむこと」を重視するとともに、活動の場も、安全が確保できるならば、校庭だけでなく地域内の公園や公的な施設の庭等の積極的な活用を図る。

特に小学校の中・高学年では、自然環境、生態系、植物、農業等についてかなり学習し、それらへの意識や態度が形作られ、様々なかたちで実際の行動も行われているので、ある程度園芸、花づくりに焦点を絞る方がその効果が明確になる。

また、各分野の専門家による直接指導の機会を取り入れることが児童の興味を深めたり、さらなる調べ学習を動機付けたりすること等に効果的である。

この場合も幼児と低学年の児童を対象とする花育と同様、家族、近隣、コミュニティ全体に波及し、年齢や所属を越えたものに発展する可能性に期待したい。

### 1 - 2 花育の教育上の効果等

#### 1 - 2 - 1 花育の教育上の効果

(生命あるものとして花や緑に触れ、感動を体験する)

- ・ 身近な花や緑に親しむことによって生命あるものに触れる感動を体験し、植物との健全な関わり方を学ぶ。それは自己と他者との立場、あり方を学ぶことにつながり、花や緑の外観に関心を持つだけでなく、花や緑を大切なもの、愛おしいもの、かわいいものと思う気持ちを育む。このことは、花や緑の存在が人に与えてくれるものの大きさを感じ、感謝する気持ちにつながる。

(花や緑を介して人と自然の関わり、生命あるものへのやさしい気持ちを育む)

- ・ 人にとっての花や緑の価値を知り、それぞれにふさわしい扱いができる感性と方

法が身につく効果が期待できる。同時に花や緑に関わる中で、花や緑を介して人と自然との関わり、生命あるものへのやさしい気持ちをもつことができれば、子供たちにとって単に花や緑を知ること以上の価値をもたらす。

(植物の栽培や植物を素材とした創作活動等を通じて、探求心や創造力を育む)

- ・ 植物の栽培を通じて、育てるため、楽しむための創意工夫をし、技能、知恵等を身につけるとともに、植物を素材として活用した多彩な創作活動等を通じて、創作の喜びを感じ、豊かな創造力を育む。

(高齢者や花と緑の専門家等との、新しい人とのつながりを作り、広げる)

- ・ 花や緑の栽培や装飾の作業を共にすること、中でも普段の生活ではその機会があまり多くない高齢者、花と緑の専門家(花の生産者、フローリスト、フラワーデザイナー、グリーンアドバイザー等)との共同作業は、新しい発見や人とのつながりを作り、広げるという効果が期待できる。

(家族や友人などへのよき波及効果が期待される)

- ・ 幼児・児童期の花や緑との様々な関わりは、子供だけでなく、家族やその友人、近隣の人々等周囲にもよい影響が及ぶ。結果的には、子供を取り巻く多くの人達をも健全で多様なかたちで花や緑に関わることへと導くことになる。

## 1 - 2 - 2 花育指導上の配慮等

### ア 花育指導上の配慮事項

(花や緑を「生き物」と見る)

- ・ 花育の意義、効果をより鮮明にするために欠かせないのが、花や緑を 生き物と見るか、モノと見るか、両者を使い分けるかについて、指導者の見解を統一しておくことである。目の前の花のかわいさ、美しさに気をとられてそれらをあやふやなままにすることは好ましくない。花育の活動を実践する場合の基本な考え方は、の生き物と見ることであり、子供たちが生き物として花や緑と接することで、命ある人と植物は支えあう関係である例を学ぶ。

(地域の花や緑を楽しむ)

- ・ 自分たちの住んでいる地域の原植生や自生の植物の大切さについての解説を加え、植物の側の都合、季節に合わせて花や緑を楽しむ方法等を示すことが必要である。

(環境に配慮した花や緑を楽しむ)

- ・ 環境に配慮した花や緑の楽しみ方ができるようになるための指導も欠かせない。例えば、小学校の中・高学年の児童を対象とする花育では、生態系への影響、化学薬剤・肥料の使い方にも言及することが必要である。

(花育の内容は、様々な視点から多岐に渡ったものとする)

- ・ 時代感覚にあった新しい花や緑と人との関係に目を向けて、花育では、偏りなく誰もが楽しめる方法を中心に採り上げる。そのためにも花育の内容は、様々な視点から多岐に渡ったものであることが望ましい。

(子供のこころのケアにも留意する)

- ・ 命ある花や緑は必ずしも全部がすくすくと成長するとは限らない。枯死したり、

花や実をつけることができなかつたり、まだ美しいと見える花を捨てたりしなければならぬ時等、世話をした子供の心の傷は、指導者や保護者が考える以上に大きい場合もある。花育においては、このような場合における心のケアに関する対応も行っていく必要がある。

(年間スケジュールを作成する)

- ・ スムーズに花育を進めるためには、後述する花育実施例のような多岐に渡る内容を整理して、年間スケジュール等のガイドラインを作成する必要がある。

(花育日記等を活用し、記録を保存する)

- ・ 幼児や児童の成長段階に合わせて、実施回毎の「良くできたシール」、全国共通の花育手帳、花育日記帳等を活用し、その楽しさを絵や文に記録保存することも効果的である。

(花育の成果を数値化する)

- ・ 花育の記録やアンケート調査を数値化する等して、花育の成果を集積することは、成人のそれとは大きく異なる、子供の目から見た、子供の心が感じた花や緑の姿を明らかにすることにもなり、それは今後の花育の具体的な手法等を検討する上でも有益な情報をもたらすものである。

(保護者の共感を得る)

- ・ 価値観が多様化した保護者の共感を得られるかたちにするのである。特に、環境問題等への関心が高まる中で、大半の保護者に受け入れられる花育の内容を検証していくことが必要である。

## イ 花育の実施例

現在、花育の場で実施されているものも含めて、いくつかの例を挙げる。

(植物の栽培・収穫・装飾等を学ぶ)

種子や球根の植え付け、株分け、挿し芽、挿し木、取り木等により、植物を育てその一生を観察すること。

生命力、命の営みに感動してそれを守ることの大切さを実感させることに効果的であり、花育にとって最も基本的なことである。

また、花の咲くまで、実のなるまで、種子のできるまでの過程を観察することにより、花と葉の機能やその関係の基本を理解させることができる。

花を収穫(花摘み体験)して、飾る、押し花等にすること。

ふだん家庭や自分が切り花を使い慣れているとしても、土に生えている花を切る行為は、多くの子供にとっては新しい体験となる。

また、花を飾る楽しみや花を贈る喜び等の新たな体験ができる。

花の観察日記、花の詩・俳句、作文を書き、また、花の絵を画くこと。

それらの作品を発表したり、観賞する機会を設けることは、友達の花の感じ方を知ったり、花のこと(思い出等も)を話し合ったりすることによって、花に対する理解をより深めることができる。

(園・校外に出て、花や緑の利用方法を学ぶ)

都市、郊外での景観形成における花や緑の使われ方を眺めること。

自然の野山の花、植物園、花のあるコミュニティガーデン、花の生産地、花のイベント等を見学すること。

(国内外の花や緑の文化、歴史を学ぶ)

花遊びや草遊び等の楽しみや花に係わる四季の祭事等を体験すること。

花の歴史、花き産業、花と祭、仏花、生け花等を学習すること。

諸外国の花や緑の楽しみ方に触れること。(映画などでも)

(花や緑に関わる映画等の作品を鑑賞する)

花の絵画美術作品、文学、童話、アニメ、映画等を鑑賞すること。

花や緑に関わる内容の演劇を鑑賞したり、演じたりすること。

今後ともテーマや方法等を創意工夫していくことが必要である。

### 1 - 3 花育の地域活動推進上の効果

花や緑を介することによって、異なる年代、性別、国籍、宗教間等を越える交流、触れ合いを支障なくスムーズに進めることができる例は多い。これは花や緑が持つ大きな価値のある社会的効果である。

(花や緑を介して人と人をつなぎ、地域問題を話し合う場を提供する)

人々の日常を幸せなものにするのに大きな力を持つのがコミュニティとそのあり方であると分かってきた現在、コミュニティへの注目度はますます高まっている。高齢化、少子化が進み、家族、親戚の中での助け合いが難しくなっている。公的な支援を補うことのできるほとんど唯一の可能性を持つのがコミュニティ内での助け合いである。この意味からも地域の人と人をつなげる花づくり、緑づくりには大きな価値がある。

花や緑の持つ社会的効果を最大に発揮させることができるのが、各地域で作られ活動し始めているコミュニティガーデンである。近距離にあって地域の高齢者から幼児・児童までが参加しやすいため、花育の場、福祉園芸の場として適している。多くの異質の文化や価値観を持つ人々が共に暮らすアメリカでは、問題の多かった地域にコミュニティガーデンを作ったところ、目覚ましい改善が得られたという例等も紹介されている。引き籠もりがちな高齢者がコミュニティガーデンを見に顔を出し、園芸作業に加わることになれば医療費削減の期待ができる等の直接的な効果の他にも、コミュニティガーデンにおいて地域の人々が共に花や緑を育てることによって、お互いの理解が深まり、共に考えたりすることで、様々な地域の問題が解決、あるいは緩和されたという例もある。特に、住居のある環境、収入条件等によって、必ずしも全ての家庭が庭を持たない現状を見ると、花や緑を楽しむ未来形として、閉鎖的ではなく地域の住民の誰にも開かれたものであるコミュニティガーデンの意義はますます重要となろう。

ただし、人と花、人と緑の間にも現代社会の複雑な状況が反映されて、公共の場に花を植えること、花を飾ることに対して住民すべてが一律に賛成するとは限らない。これらを打開し、解決する可能性は、地域の人々の話し合いとそれに続く努力や工夫しかない。しかしその過程を通じて、コミュニティのまとまりがより深まるという大きな副産物も期待される。

(伝統的な地域独自の花や緑を活用して、観光客の誘致や特産品開発につなげる)

様々な価値観を持つ人々が参加するコミュニティガーデンの運営には、多くの問題が浮上してくることは避けられない。そこで地域のコミュニティガーデン、あるいは同様な施設の運営、維持にかなり有効ではないかと考えられるのが、伝統的な地域独自の花や緑、

その栽培法、利用法の活用である。それぞれの地域にその土地らしさを表すような独自性のある花や緑があれば、地域の人々は、それができるのは今ここに住む自分たちだけであると感じ、それを守り育てて次代に受け継ごうとする動きが自然に起こってくる。地域の固有性、独自性を強調することによって参加者の思いをまとめることが可能になると期待される。更に、これらによる人々の結びつきは、観光客の誘致や特産品の開発に結びつく可能性もある。

(各地域での花づくり、緑づくりのネットワーク化へと進展する)

公的な財政の支援や花の生産地・生産者との交流の中で、花材や技術等の支援・協力を得ることができれば、地域交流の場、花育の場、福祉園芸の場としてコミュニティガーデンをはじめとする各地域での花づくりの、緑づくりのネットワーク化も視野に入れることができ、今後、花育の社会的意義はますます高まり、普及していくことが期待される。

## 2 花育活動の具体的な推進方策

このような花育の社会的な意義や効果を踏まえ、花育活動を全国的により一層推進するためには、当面、次の方策により花育活動の取組主体を支援・育成することが重要である。

花育活動推進のための全国的な支援体制の確立

花育活動実施運営システム(人材の登録、仲介斡旋、ネットワーク化等)の整備

花育活動の先進的事例の紹介

日本の四季豊かな気候風土に適した花育活動の実践マニュアルの作成・紹介

児童保護者、地域住民等への積極的な花育活動情報の発信、啓発

花育活動の成果調査と評価の実施

花育活動の人材育成等への支援(アドバイザーの派遣、研修・セミナーの実施等)

### 2 - 1 花き業界団体の推進体制のあり方

花き業界団体や生産者や企業等の中には、花育活動を積極的に位置づけ取り組み始めている事例が全国各地で生まれつつあり、また地方自治体も参加して組織的に取り組まれる事例も見られる。

しかしながら、都市化の影響が深刻な大都市圏、地方中核都市等、花育の必要性が高く、その効果が十分に期待される地域では、まだまだ組織的な花育活動の取組が少ないので、今後、花き業界が主体となって花育活動を組織的に推進することが強く求められている。

特に、社団法人日本生花通信配達協会では、全国の56地区ごとに毎年保育所や幼稚園の花壇づくりを支援する活動を実施している。また、社団法人日本家庭園芸普及協会では、花き園芸の専門家としてグリーンアドバイザーの育成・認定事業を実施しており、現在約9千名のグリーンアドバイザーが登録されている。当該協会では、グリーンアドバイザーが地域単位活動グループを形成して園芸相談活動や花育活動等を実施することを奨励・支援しているところである。また、その他の花き団体でもそれぞれの専門分野の技術の向上や指導者の養成活動等を実施しているので、これらの人的資源を活用して全国的な花育活動の支援組織を形成して、より質の高い花育活動を迅速に普及・展開することが重要である。

## 2 - 2 教育機関での取組のあり方

花育活動は、主として保育所や幼稚園等の幼児や小学校の児童を対象に、我が国の四季豊かな気候風土や花文化に即した年間計画を作成して実施することがより効果的であるので、花育活動の実践に当たっては、花き園芸関係者と教育関係者の相互理解と連携・協力が必要不可欠である。

具体的には、花き園芸関係者と連携・協力して、全国でいくつかのモデル幼稚園や小学校を設け花育活動を実証する中で、教育カリキュラムに適応した花育活動のマニュアルを作成したり、指導者の研修・セミナーや交流会を開催する等を通じた指導者の実践的な質の向上と人材の養成確保を継続的に図ることが重要である。

## 2 - 3 行政の連携と協力

花き業界団体と教育機関との連携・協力を図る上では、農林水産省と文部科学省が連携しつつ、全国的な展開が図られるよう誘導するとともに、地方自治体の教育担当部局と農林担当部局との連携・協力が重要である。

また、都市公園等を花育の場、福祉園芸の場、コミュニティガーデンの場として積極的に活用するためには、地方自治体の都市緑化担当部局と農林担当部局との連携・協力が不可欠である。

## 2 - 4 花き業界、学校、行政と連携した花育活動の推進

今後花育活動を全国的に推進するためには、花き業界、学校関係者の連携を強化していく体制の整備を、全国レベル、地域レベルで連携・協力しつつ、地域の実情に応じて、構築することが重要である。

### ア 全国的な花育の取組の組織化

全国的な花育活動を推進するために、花き業界、学校、地方行政関係者等を構成員として全国的な花育の取組を組織化し、花育の取組主体（全国的な組織自らを含む）の支援・育成、又は自ら花育を実践するなどの各種取組を行うことを検討していくことが必要である。

### イ 地域（都道府県、ブロック、市町村）における花育の取組の組織化

域内の花育活動を具体的に実施するために、域内の花き業界、学校、行政関係者等を構成員として、地域の花育の取組を組織化し、花育の取組主体として各種取組を行うことを検討していくことが必要である。

### ウ 具体的な取組の例

< 取組主体の支援・育成に係る各種取組の例 >

実践マニュアルの作成、配布

事例集の作成、配布

人材育成等への支援（アドバイザーの派遣、研修・セミナーの実施等）  
国民への花育活動の積極的な情報の発信、啓発  
花育活動の成果調査と評価の実施

< 取組主体としての各種取組の例 >

花育ボランティアの登録とネットワーク化  
花育ボランティアの紹介派遣等  
花育ボランティアの育成  
児童保護者、地域住民等への花育活動の積極的な情報の発信、啓発  
組織メンバーによる地域の学校等と共同しての花育活動の実施

(参考資料2)

花育活動推進委員会の構成

(委員)(敬称略、五十音順)

今西弘子	法政大学兼任講師
濟藤利雄	(社)日本生花通信配達協会理事
佐々木真知子	(社)日本生花通信配達協会 J F T D 学園日本フラワーカレッジ教務課長
高杉揚子	(株)フローレッツエンティワン センター21本部 ロディスティック Div
中道光子	都立園芸高校講師、グリーンアドバイザー
丹伊田弓子	東京学芸大学講師
宮 眞由美	世田谷区立中町小学校教諭
望田明利	住化タケダ園芸(株)技術顧問、グリーンアドバイザー
山崎紀子	品川区立御殿山幼稚園副園長

印の委員は、花育活動実践マニュアル作成グループ  
花き業界のフラワーデザイナーやグリーンアドバイザー等の花と緑に関する  
専門技能を有する者とともに、幼稚園や小学校の教育関係者から構成されてい  
る。

(オブザーバー参加)

農林水産省	
国土交通省	
文部科学省	
網野 香奈江	凸版印刷株式会社 情報コミュニケーション事業本部 トッパンアイデアセンター 花緑プロジェクト

(事務局)

事務局は、財団法人日本花普及センター企画調査部  
〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-6-17 山一ビル4階  
T E L : 03-3664-8739 F A X : 03-3664-8743  
E-mail : [jfpc@jfpc.or.jp](mailto:jfpc@jfpc.or.jp) <http://www.jfpc.or.jp>